

さんくす

発行:笠懸町第三区広報委員会

発行所:笠懸町第三区公民館

https://sannkusu-kasakake.com

sannkusu.kasakake@gmail.com

三区1,000世帯突破、笠懸で6番目

11月発表のみどり市、市民課の行政区別の世帯数ならび住民数によると、三区の男性1,299人、女性1,326人の合計2,625人となり、世帯数は1,005世帯となりました。

笠懸内で見ると1,993世帯(5,052人)の九区がトップで、それに1,717世帯(4,498人)の六区、1,620世帯(4,007人)の二区と続き、七区が1,497世帯(3,841人)、五区が三区を13世帯上回る1,018世帯ですが、人口は2,407人で、三区が218人ほど上回ります。

合併により東地区、大間々地区、笠懸地区、三つの地域のみどり市になりました。笠懸地区の人口は29,957人(11,840世帯)で、大間々地区18,574人(8,030世帯)、東1,854人(895世帯)となります。

数が多いということは、課題もたくさん抱えることになります。私達が暮らす第三区も行政区として1つの節目を迎え、地域の防災やコミュニティとして、いろいろ考える点があるように思います。

写真:三区内では住宅の建設が多く見られます。



阿左美駅完成予想図

阿左美駅3月14日から供用開始

昨年から工事が行われていた東武桐生線の阿左美駅が、令和2年3月14日(土)の始発から供用開始になります。

これは、主要地方道桐生伊勢崎線(通称阿左美バイパス)の拡幅工事に伴い、阿左美駅を現駅から新桐生駅側に約300mの位置に移設するものです。

みどり市では「駅舎の移設と併せて駅前広場を整備することで、駅利用者の利便性向上や、まちづくりの拠点として賑わいを創出する」としています。

オープニングセレモニーは3月中旬に駅前広場で行う予定となっていますが、駐車場や歩道橋などの整備はずれ込むことが予想されます。



工事中のホームを通過する車両

散歩道(11) 岡登用水

江戸時代の初めには笠懸野は土地が痩せていたため水田には適さない地域でした。その時代に笠懸地域を治めていたのが幕府の代官岡上景能公でした。

景能公の発案で渡良瀬川から水を引いてくることになり、難工事の末1672年に完成しました。しかし、下流にある館林藩の既得水利権への配慮で、幕府から厳しい取水制限がつけられました。

そこで、新田開発を予定している最も上流に鹿の川沼を作り、阿左美村、藪塚村方面の農業用水のために阿左美沼を拡張工事しました。景能公の死後農業用水としては荒涼してしまい、その後180年間も空

堀として放置されていました。

明治6年(1873)地元民の度重なる再興運動を経て全面的な再興を成し遂げました。

現在の岡登用水の名称はこの時につけられたものです。平成4年頃から暗きょ工事により拡幅され、道路または歩道となり、水路の面影はありません。

阿左美沼西五区5差路から小沼西、50号バイパスを潜り、くりた医院東、南光寺東を通り、二区へ抜ける道路の下を流れています。この三区を通る岡登用水は明治時代再興後に新たに掘られた用水路で、現在も農業用水として、また地域の雨水排水路として役立っています。



南光寺付近の遊歩道の下は岡登用水

上毛かるた、団体戦高学年A 3位入賞！ 個人戦 低学年B 3位入賞！

1月19日(日)に笠懸公民館で、第62回笠懸町子ども会上毛かるた大会が開催されました。三区からは、1年生～6年生の19人が個人戦と3人1組の団体戦に向けてチーム編成しました。低学年の部(1～4年生)と高学年の部(5、6年生)に、個人2人、団体3チームの合計5チームが出場しました。

三区の子ども達は、大会出場に向けて11月末から1月17日まで週2回の練習をしました。当日は練習の成果を大会で発揮した結果、個人戦では低学年B第3位入賞、団体戦では高学年Aチーム第3位入賞となりました。

上毛かるたは歴史が長く、1947年に製作されてから現在も幅広く親しまれています。子ども達は真剣な表情で札を取り合うなかで群馬県の事を学び、素晴らしい成績も手に入れました。お正月の伝統行事に参加できたことは思い出になることでしょう。



子ども会ドッジボール大会 優勝！

12月15日(日)に笠懸東小学校体育館で開催された、笠懸町子ども会ドッジボール大会で優勝しました。

この大会は当初、10月13日に笠懸町秋季球技大会が開催される予定でしたが、過去にない大型台風の接近に伴い中止となり、代替大会として12月に開催されました。

三区からは1年生から6年生までの合計14人が出場しました。笠懸町、桐生市、太田市から合計6チームが参加し総当たりの予選リーグから大会が始まり、三区チームは予選3位で決勝に進出しました。

準決勝までは接戦による勝利でした。決勝戦でも見事なチームワークを発揮し、0対1からの逆転によるセットカウント2対1で優勝しました。三区は年々メンバーの人数が少なくなっており、今大会でも0対2から試合を始める不利な状況でしたので、優勝の瞬間はメンバーだけでなく、育成会役員さんも喜びがあふれる大会となりました。

資源ゴミ回収 ご協力に感謝

三区育成会では、今年度も年3回の資源ゴミ回収を実施しました。第3回目の収入金は3月10日頃に決定するそうですが、第2回目までは22,554円の収入があったそうです。

その収入金は、育成会行事に参加している多くの子ども達に有効活用することができ「区民皆様のご協力に感謝し、次年度も引き続きお願いします。」と育成会の江原会長から感謝の言葉がありました。なお、江原会長は3月の任期満了をもって退任となります。

やよいひめ 誕生物語 (8)

やよいひめは海を越えて-2

優れた形質をもった日本の品種を両親に使えば、優れた品種が短期間で完成できることにつながる。しかし一方、日本では今や各都道府県が独自の品種を開発し、販売攻勢をかけるという産地間競争の中、新品种の開発には莫大な時間、コストをかけて取り組んでいるのである。同様の事例は、国が育種したブドウの「シャインマスカット」や山形県育成のサクランボ「紅秀峰」でも苗の海外流出が起きている。



このようなことから、国でも流出防止対策に取り組み始めた。本県では数年前から県内で収穫された「やよいひめ」を東南アジア諸国に試験的に輸出し始めた。富裕層がターゲットだそうである。やよいひめの輸送性は抜群であり、海外の消費者にも群馬県のイチゴの味を楽しんでいただけるものと期待している。

振り返ると、本県のイチゴ品種改良は1991年カリフォルニアからの品種導入事業から本格的に始まった。やよいひめの開発、登録まで14年という歳月とコストがかかっている。

以前にも書いたが、市場流通がはじまり想定外の欠点が現れて消えて行く品種は山ほどある。そういった中、たまたまではあるが、流通市場に残り、比較的良い評価の中、登録権利の残りはあと5年間である。この間に本県のイチゴ農家の「儲かる農業の実現」にあたり、やよいひめが役立つことを願っている。そして、やよいひめを超える品種の開発は続いている。(完)

公民館の大掃除と防災訓練

12月1日(日)午前9時より、年末恒例の三区公民館大掃除と防災訓練が、行政区、地区公民館役員、各種団体サークル他公民館を利用している約60人の参加で行われました。



畳を全部屋外に運び出し、網戸・窓ガラス・厨房・トイレ・エアコン・屋外広場の除草作業他、一年間の汚れを落としました(写真上)。

また、大掃除終了後には、みどり市消防本部と地元第一分団の指導の下、避難訓練と消火器を使っての消火訓練が行われました。実際に火災を発見した時は「火事だ！火事だ！」と大きな声で叫んで周りに助けを呼ぶことが一番大切との事です。

一般の消火器の放射時間は約15秒で放射距離は約5メートルとの説明に、参加した多くの方は「放水時間が意外と短いね」と驚きを隠せず「いい勉強になって良かった」と話していました(写真右)。何よりも火の用心です。



わかばサロンⅡで軽スポーツと手打ち蕎麦

令和2年始めの1月8日(水)、午前10時から2時間、三区公民館ホールでわかばサロンⅡ(福祉部主催)が開催されました。

参加者43名で今回も阿左美そば打ち愛好会のかけそばの食事を用意され、会場は大いに盛り上がりました。



ボランティアの方々の琴演奏、南京玉すだれ、替え歌ボケない小唄を歌ったり、福祉部による輪投げ大会の後に、美味しいと大好評の手打ち蕎麦をみんなでいただきました。今回はかけそば大盛で大満足の声が多く聞かれました。ボランティアの方々には忙しい中お世話になり、ありがとうございました。

笠懸東小学校4年生、阿左美沼清掃

11月28日(木)午後2時より笠懸東小学校4年生による阿左美沼清掃が児童71名、教員保護者34名、土地改良区役員や地域のボランティア19名の合計124名で実施されました。

当日は冷たい北風が吹く寒い日でしたが、元気な子どもたちは水を引いた沼の中に入り、泥んこになりながらもゴミの回収に努めました。

今年は阿左美沼土地改良区が作成した「阿左美沼について学習しよう」のパンフレットから、沼の歴史や、役割など清掃する意義を理解して実施してもらいました。

この体験学習は14回目になりますが、今年は特にゴミの回収量が少なく、事業を継続している毎年の成果ができています。



きれいな沼の水を利用したこの地域の稲作が今年も豊作になることを願っています。

令和元年度各種団体反省会

令和2年2月8日(土)、午後6時30分から3区公民館において、区主催による令和元年度各種団体の反省会が開催され、80人ほどが参加しました。

はじめに主催者の武井区長から「納涼祭は雷雨となりましたが、お陰様でなんとか最後までできました。また、敬老行事は台風による影響がありましたが開催できました。令和2年度は天候に恵まれ、各種団体の協力で行事が行われるようお願いします」と挨拶がありました。

松田公民館長からは「皆様の協力のお陰で無事に多くの事業を成し遂げる事ができました」と感謝の挨拶がありました。その後、水出前区長の乾杯により、反省会が始まりました。

今年度の行事を振り返りながら、しばらく歓談を経て、藤生親老会長による締めで閉会しました。





令和元年の歳末夜警

令和元年12月28日(土)19時から0時までみどり市消防団歳末夜警パトロールが始まり、29日と30日で合計3日間、同時間帯で行われました。

この日、第3区にある第一分団(団員14名)の詰め所では寒い中にもかかわらず団員たちが交代制で夜警パトロールを行いました。初日として、みどり市から市長並び市関係者、県議、広域消防長1, 2, 3区の行政区長等訪問もあり、団員もキビキビとした対応を示しました。

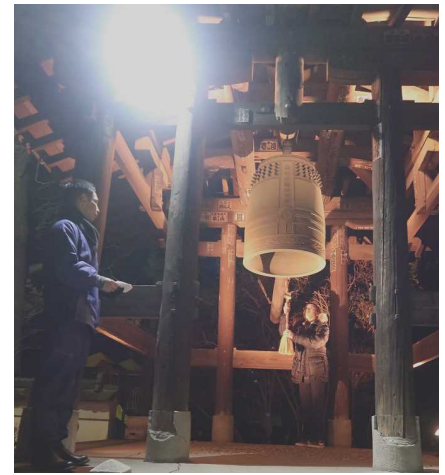
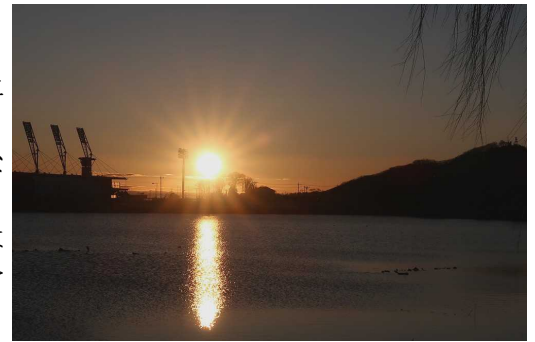
令和元年は大雨(台風19号)のために激甚災害指定がいくつかの県で施行されるなど、大きな災害がありました。

近年、荒れた気象が多く、いつ起こるかかわからない災害が心配されます。火災や自然災害から住民の生命財産を守ることが、消防団のスローガンでもあります。一人一人の繋がりを大切にする地域消防団のような活動が、より一層求められると改めて感じます。写真:大沢議長より激励を受ける消防団員。

お詫び 前号の特別寄付を頂いた事業所の記事に「グリーン歯科クリニック」様が掲載されていませんでした。お詫び致します。

年末年始の風景

穏やかな元旦を迎えた阿左美沼(右)
地元SUBARUに大きな声援(下)
大晦日の南光寺には多くの人が集まり、鐘をついていました(右下)



第7回美しい阿左美沼地域風景展

12月19日(木)～12月22日(日)農地と水・阿左美地域環境保全協議会主催の第7回美しい阿左美沼地域風景展が笠懸公民館ふるさとギャラリーで開催されました。



この風景展は、阿左美沼や荒神山など阿左美地域の恵まれた自然環境を絵画を通じて景観環境保全を進めるための啓発活動として取り組んでいます。

一般の部では賛助作品を含め31点、子どもの部は76点の出品がありました。

22日(日)の表彰式には来賓としてみどり市須藤昭男市長を始め、主催関係者と各優秀賞の受賞者14名が出席しました。受賞された子ども達の喜びの表情が素敵でした(写真)。

ちょっとピンぼけ

昨年の5月に改元されて「令和」となり、今年の5月で1年となります。この1年は皆さんも色々な思いで過ごされたことでしょう。令和となってからスポーツや各種イベント等では、「令和初」優勝または開催等の言葉を多く聞いたことと思います。皆さんも「令和初」の記念を作りましたか？

「令和初〇〇」は4月末まで続くことと思いますが、今年に入ると開催期間が7月24日から8月9日の東京2020オリンピック、開催期間が8月25日から9月6日までの東京2020パラリンピックの話題が更に多くなってきました。

東京でのオリンピック開催は1964年以来56年ぶり2回

目です。東京2020オリンピックは史上最多の33競技・339種目、東京2020パラリンピックは22競技・539種目が多くの競技会場で開催されます。皆さんの中にも観戦チケットに当選され、開催会場で各種競技を応援される方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

残念ながら観戦チケットが手元になく、テレビに向かって大きな声で応援される方も多くいらっしゃると思います。どんな競技であっても世界ランキング上位の選手が入賞するとは限らないのが競技です。参加する選手の皆さんが今まで練習してきた成果を発揮してくれることを願うばかりです。T.K